

年度	科目名	課題領域	単位数		
2024年度	外国につながる児童生徒の教育III	学校づくり・地域づくり	1		
授業の目的	<p>1. 保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制づくりを考える。《つなぐ力：テ～ナ》</p> <p>2. 異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりを考える。《つなぐ力：ニ～ネ》《変える／変わる力：ノ～ヒ》</p>				
学修目標 (目標とする資質・能力)	<p>・学校現場や社会教育施設における外国につながる児童生徒・保護者への学習支援について、自らの課題の解決策を提案・試行し、その有効性を検証して、誰もが実践できるように普遍化できるようにする。</p>				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	8月24日 (土)	午前1 (90分)	多文化共生社会における学校教育と教員	多文化共生社会における学校教育の在り方と、教員が取り組むべき事項について解説する。	波多江俊介（教育学研究科准教授）
2		午前2 (90分)	外国につながる子どものための学校づくり（1）	諸外国における外国人児童生徒のための学校整備の状況について解説を行う。	金美連（熊本学園大学外国語学部特任准教授）
3		午後1 (90分)	外国につながる子どものための学校づくり（2）	日本・熊本における外国人児童生徒のための学校整備の状況について解説を行う。	
4		午後2 (90分)	多文化共生のための学校づくり	多文化共生のための学校づくりの方途について解説し、受講者らと考えを深めていく。	波多江俊介（教育学研究科准教授）
5	8月25日 (日)	午前1 (90分)	多文化社会の社会教育：居場所としての公民館	子どもだけでなく、成人を含めた外国人の学習権の保障について、公民館を中心に考察する。	山城千秋（教育学研究科教授）
6		午前2 (90分)	多文化共生の地域をつくる	多文化共生の地域づくりは、どのようなことが課題であり、支援が必要なのか、ワークショップ形式で検討する。	
7		午後1 (90分)	地域における外国人の学習と多文化共生（1）	熊本で加速度的にすすむグローバル化の現状と課題について、主に熊本地震発生時の外国人被災者の課題や支援活動を事例に、今後の多文化共生社会のあり方について考え理解する。	八木浩光（熊本市国際交流事業団専務理事）
8		午後2 (90分)	地域における外国人の学習と多文化共生（2）	多文化共生の地域づくりにおける社会教育の役割や可能性を考える。	
履修条件	現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）				
評価の方法	授業への参加、事後アンケート				
<p>表中の《つなぐ力：テ～ネ》《変える／変わる力：ノ～マ》の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」に該当する。詳しくは、次の文献のpp. 5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（https://mo-mo-pro.com/report）</p>					